

【連載9】
教えて！ 救急の人

講義9

顔面(顎)の骨折対策は？

スキヤーの皆さんに起きやすいケガや病気への疑問・質問に北海道のお医者さん、歯医者さん、救急隊員さんがお答えします。

答える人
田口貴嗣
(たぐち たかし)

北海道・旭川市「なかよし小児歯科」院長
1957生まれ、北海道旭川市出身。小児歯科専門医。全日本スキー連盟指導員、B級検定員。アキラ・ササキにあこがれるもローカルレースで大ケガ。当コラムの玉川進医師に命を救われる。以来、低速滑走専門の模範安全スキヤー。



キッカーからジャンプしてアイスバーンに顔から落ちました……。



意識はありますか？
呼吸可能なことを確認してください。

○下顎骨折

下顎骨折は顎の骨折で頻度が高く(ボクシングのモハメド・アリも骨折してKO負けた記録があります)、原因はハイスピードでのリフト支柱や立木への激突、パークでの落下事故でしょうか(写真1)。

恐ろしいのは意識喪失と口底部の大量出血です。今シーズン初めに西日本で降雪による死亡事故が報道され驚きましたが、スキー場も同じです。転倒などで失神してしまい、発見されずに死亡する事故は、毎年起きています。たとえリフト下のようなエリアでも、完全に死角になる場所での単独無謀滑走は慎みましょう。失神して雪に埋もれてしまえば、発見されずにおしまいです。

写真1



実際に顎骨折があった場合、危険なのは口腔内の大量出血です。気道が詰まると息ができなくなり、窒息する可能性があります。失神に近いような場面に遭遇したときは、とにかく呼吸できているかを確認します。口のなかから出血・嘔吐物があれば、指でかき出して呼吸を助けてください。

○上顎骨折

上顎骨折は、顎の骨折のなかでは最悪です。受傷直後には直接生命をおびやかすショック、呼吸困難、出血などに対する応急処置が必須です。顔がはれて目の周りがパンダのように皮下出血してくると、目の下まで骨折しているかもしれません。合併症として脳損傷、眼損傷、胸腹部損傷などが起きている可能性があります。いずれも専門医による診断・早期治療が要求されるため、一刻も早い医療機関への搬送が必要です。

○対策について

無謀なスピード滑走や技量オ

ーバーなジャンプ、トリックをしないのが一番なのは言うまでもありません。バックカントリー滑走で、初めての場所で地形・斜度が読めないときは要注意です。視界不良のとき時も立木に激突注意です。とく上級スキヤーを自負する方は、上級スノーボーダーとは絶対に勝負しないでください。負けるだけです。そもそも浮力が違うのです。異種格闘技は無益と知るべきです(大人ですから)。

モーグル、ハーフパイプなどに競技として参加している方は当然、トランポリン、エアマット、ウォータージャンプと段階的練習を積んでいます。一般上級者でも夏場の練習を工夫してみてください(写真2)。運動神経と度胸とノリだけでパークに入る若者が一番心配です。

最後になりますが、かならずヘルメット着用です(競技参加者はマウスガードも必須アイテムです)。AKBのおねえさんがスキーの宣伝に出ているのはうれしいのですがヘルメットは未装着ですね。元F1レーサーのシューマッハがスキー事故で意識不明になった事故は記憶に新しいと思います。ヘルメット未装着なら、どうなっていたでしょう。今から来シーズンが待ちどおしい方、新規購入予算にヘルメットをお忘れなく。それでは来シーズンをお楽しみに。



写真2